

ネット僧侶派遣を頼んだ喪主に知らされないお布施搾取これでもいいのか!? 施主が僧侶に差し上げたお布施から75%も葬儀業者が抜き取る事態

葬儀現場における前代未聞の異常事態というほかない。施主が導師に渡しただけのお布施のなんと75%が施主の知らぬ間に葬儀仲介業者のものになるというのだ。都内六カ所で火葬場を経営する株式会社東京博善（東京都港区）は、この六月一日より、直葬を行う喪家を対象に「東京博善のお葬式」と「常駐僧侶による場内読経」を町屋斎場（荒川区）と四ツ木斎場（葛飾区）で開始した。

同事業開始にあたり、小さなお葬式で知られる僧侶派遣・葬儀仲介の株式会社ユニクエスト（大阪市西区、以下ユニ社）は

今年四月、「東京博善のお葬式お布施額表」をユニ社に登録する僧侶に配布した。本誌はその「お布施額表」を入手した。左頁の表がその一部だが、ご覧いただきたい。《(1)お葬式の場合のお布施金額（税込）》の「火葬式」は総額十万円に対し、お布施金額（甲への支払額）二万五千円、手配手数料（乙手数料）七万五千円。「一日葬」は総額二十万円のうち、お布施金額は五万円、手数料は十五万円。「家族葬」も総額三十万円に対し、お布施七万五千円、手数料二十二万五千円とある。

ここで「総額」というのは施主が導師に包んだお布施の額である。つまり、そのお布施の75%が手数料としてユニ社のものになるのだ。しかも金額は「税込」ともされている。本誌が僧侶派遣を取材してきたなかでも最大の手数料割合だ。

東京博善が用意した施主側への案内書には《斎場にて僧侶に現金でのお支払い》とされており、施主はあくまでお布施を僧侶に渡す形なのに、そこからいわゆるバックマージンとして75%も同社が「搾取」する。もちろん施主にはそのことは知らされていない。施主からすればお

布施と称するサギにも思えよう。つまり東京博善とユニ社が提携していることだったが、東京博善の担当者こう話す。「東京博善とユニ社との間に常駐僧侶サービス上の提携関係はありませんし、弊社には「お布施額表」なるものもございません。私どもは、ユニ社ではない寺院手配会社と契約し、弊社、同社、同社の登録僧侶との間に手数料の設定はありますが、その割合は非公表です」

東京博善も何割かの手数料を取るようだが、ユニ社が「東京博善のお葬式のお布施額表」を作成・配布していることは知らないという。

直葬専門の葬儀と僧侶仲介では、東京博善のお葬式とは、どのようなものなのか。

同社の《常駐僧侶による場内読経のご案内》には、《直葬を

ユニクエスト社が「東京博善のお葬式」について
出仕する僧侶に配布した「お布施額表」の内容の全容
(注/入手したコピー資料をそのまま本誌が読みやすく作り直したもの)

2022_4_21

お 布 施 額 表

(1)お葬式の場合のお布施金額 戒名ありの場合 (税込)

	東京博善の火葬式	東京博善の一日葬	東京博善の家族葬 東京博善のお葬式
総額	100,000円	200,000円	300,000円
お布施金額 (甲への支払額)	25,000円	50,000円	75,000円
手配手数料 (乙手数料)	75,000円	150,000円	225,000円

(2)お葬式の場合のお布施金額 追加おつとめ (税込)

	東京博善の火葬式	東京博善の一日葬	東京博善の家族葬 東京博善のお葬式
出棺経	30,000円 (手数料22,500円)	対応なし	対応なし
枕経 (当日)	30,000円 (手数料22,500円)		
枕経 (別日)	60,000円 (手数料45,000円)		
当月初七日 (式中)	対応なし	含む	含む
当月初七日 (戻り・別場所)	60,000円 (手数料45,000円)	含む	含む
当日四十九日 (式中)	対応なし	60,000円 (手数料45,000円)	
当日四十九日 (戻り・別場所)	60,000円 (手数料45,000円)		
当日納骨等二法要 目以降 (同場所)	追加なし		
当日納骨等二法要 目以降 (別場所)	場所移動 1 回ごとに追加10,000円 (手数料3,000円)		

(3)戒名のみの場合 (税込)

	信士・信女 釋・釋尼	居士・大姉・ 院信士・院信女	院釋・院釋尼・ 院日信士・院日信女	院居士・ 院大姉
総額	40,000円	100,000円	200,000円	300,000円
お布施金額 (甲への支払額)	10,000円	25,000円	50,000円	75,000円
手配手数料 (乙手数料)	30,000円	75,000円	150,000円	225,000円

※現地までの往復交通費等は、すべて甲自身のご負担となります。
※お布施金額は、上記一律料金となります。

※現地までの往復交通費等は、すべて甲自身のご負担となります。
※お布施金額は、上記一律料金となります。

中心とした檀那寺のないご喪家様に対して、手厚い宗教儀礼をご提供いたします。宗教者が寄り添うことでご喪家様の「本当に直葬でよかったのだろうか」を解決いたします」とある。

従来は炉前読経のみだったものが、火葬中も僧侶が喪家に寄り添い、仏事相談や疑問に答え、今後、常に改善・向上させて

収骨時にも読経を行うという。

東京博善の担当者は話す。

「昨今は一般のお客さまとお寺との縁が遠くなりがちかと思いま

す。そのような中、特に直葬・火葬式を望まれるお客

さま向けに、葬儀式の多様化に沿って、

寺院供養のあり方も様々なものへと変化

してゆくものですから、それに合ったサービスを開発しました。

2022年9月号

いきたいと考えております」

同社がいう「常駐僧侶」の宗派は、①浄土真宗系、②その他宗派、の二つのみだ。《②に関しては各宗派僧侶が持ち回りで常駐するため浄土真宗系以外の宗派指定はご遠慮ください。常駐僧侶は全て僧籍を保持しております。順次主要八宗の指定対応を進めてまいります》とある。

これについて同担当者は、「文科大臣所轄宗教法人において、仏教系で最多の浄土系を筆頭にチラシに表現したにすぎません。関係者さまに誤解を与えないのであれば、表現を改訂していきたいと思います」という。

それでは常駐僧侶の数は？
「お寺さま、業者に配慮し、回答は控えさせていただきます」
要するにユニ社は孫請けなので東京博善より手数料割合が高

いということなのかもしれない。

読経機会」ことに追加の料金
ユニ社が提示したお布施の金額は、冒頭に記したものの以外に《②お葬式の場合のお布施金額追加おつとめ》つまりオプショナルとして火葬式、一日葬、家族葬のお布施が表化されている。たとえば火葬式の場合、出棺経三万円、枕経（当日）三万円、枕経（別日）六万円、当日初七日（式中）対応なし、当日初七日（戻り・別場所）六万円、当日四十九日（式中）対応なし、当日四十九日（戻り、別場所）六万円、当日納骨等二法要目以降（同場所）追加なし、当日納骨等二法要目以降（別場所）場所移動一回ごとに追加一万円とされている。最後の「当日納骨等二法要目以降」こそ手数料は三割だが、その他はいずれも手

敷料は75%だ。

では、なぜユニ社はお布施の75%も僧侶から取るのか。

ユニ社の担当者はこう話す。
「東京博善の関連会社との契約に基づいています。契約の本身については、守秘義務がありま

すのでお伝えできません」
東京博善はユニ社との間に契約を結んでいないと話しているが、間違いないか。

「関連会社というか、東京博善のグループ会社との契約です。詳細はコメントを控えさせていただきます」

要領を得ない回答だが、東京博善とユニ社が契約を結んでいるというが、お布施の手数料が75%も抜かれている事実には変わりがない。現に、同担当者は手数料が75%であることを否定しなかった。

十年で手数料割合が倍増に

それにしても75%は現実なのか。二〇一〇年頃、まだ大手が参入する以前、僧侶派遣業者の手数料は三割から四割だった。

それでもお布施の搾取として問題視されたのだが、その後、イオンやユニ社、よりそう社（旧みんれび）などが参入すると、各社は手数料割合を五割、六割と上げていった可能性がある。

事実、二〇一九年にDMMドットコムは、手数料割合を34・4%から44・4%に抑えるとして、僧侶派遣業に参入したものの、今年五月、「市場競争の熾烈化など事業環境が厳しさを増す中で、このたびライフデザイン事業から撤退することを決定しました」と、葬儀事業全般からの撤退を表明したのだ。

明らかに、大手の寡占化が進み、お布施から手数料として業

者が差し引く金額の割合が年々上昇傾向にあることが分かる。

一体これは何を意味するのか。僧侶派遣に依る僧侶の絶対数が増えたことで、僧侶が手にするお布施をどんどん減らしても、それに依る僧侶がいるということだろう。

僧侶からすれば、お布施の搾取率は、出仕の紹介料にほかならないともいえるわけだ。

仏教界はどう答えるべきか
それでは、全日本仏教会はこの手数料75%をどう考えているのか。担当者はこう話す。

「東京博善さんが葬儀と僧侶派遣を始めたという話はこちらにも何力所から寄せられています。現在は実態把握に努めているところですよ」

都内五十五の仏教会からなる東京都仏教連合会からも、現在のところ声明等は出されていない

いが、同連合会の役職者は話す。「見えない形で企業に還流するような手続きは、いかがなものかと思っています。一方で、そうした依頼を受けざるを得ない僧侶もいらつしやるのかもしれない。しかし、個人的には、七割だろうが、三割だろうが、お布施をキックバックする前提の葬儀は受けたくないし、間違っていると思います。たとえば数万円しかお布施をいただけても、その人の精一杯に依るのがお寺の前提ですから」

県内四十の仏教会を束ねる、神奈川県仏教会の佐藤功岳会長（横浜市・日蓮宗大圓寺住職、七十四歳）は危機感を募らせる。「葬儀社も過当競争が進み、最近では会館を所有する葬儀社は、稼働率を上げるためにユニ社など葬儀仲介業者と提携し、何割かの手数料を支払って空室が出

ないようにしています。僧侶派遣も同じで価格競争が進んでいるのでしょう。しかしお布施の大半を葬儀社などが持つて行ってしまっていることを利用者が知ったら、どう思うでしょうか。全日本仏教会には、仏教界を代表して、世間一般にこの状況をアピールしていただきたい」

ちゃんとした仏式葬儀を行い、また期待している向きからは、当然ながら、批判の声が上がっている。もちろん葬儀業界も僧侶からのお布施の取り立てには黙っていない。

佐藤葬祭（東京都新宿区）の佐藤信顕社長はこう述べる。「僧侶派遣は信仰に対する冒瀆にほかなりません。その搾取したお金を莫大な広告費につぎ込み、それによって事業を拡大する」といビジネスモデルです。お坊さんへのお布施名目であり

ながら、そのお坊さんの受け取る金額の倍以上も取っていることは一切公開されていません。社会常識に照らしても、まともなやり方とはいえませんよ。業者が収入をもっと上げたいならお布施名目からではない、まったくな方法で施主から受けるべきです」

東京博善はどう考えるのか。前出の担当者はこう話す。

「料率の多寡は別にして、寺院紹介手数料は今日の葬祭市場ではきわめて一般的なものでこれらについて特にコメントすることはございません。また、あくまで一般論ですが、寺院手配業者さまが施主さまに手数料云々のお話をするのではないかと思います」

お布施の搾取はまさにお布施の冒瀆。僧侶が認めているはずはない。